

# 令和5年 第1回 総合教育会議 会議録

開催日 令和5年9月7日(木)

場 所 武豊町役場 全員協議会室

出席者氏名

町 長	靱山 芳輝	教 育 委 員	堤田 綾子
教 育 長	榊原 寛二	教 育 委 員	小藤 省吾
教育長職務代理者	永田 淑子	企 画 部 長	池田 武彦
教 育 委 員	浅野俊太郎	教 育 部 長	近藤 昭子
総 務 部 長	竹内 誠一	生 涯 学 習 課 長	伊藤誠一郎
企画部次長兼企画政策課長	森田 良孝	学 校 教 育 課 長 補 佐	藤井 千絵
学 校 教 育 課 長	森田 光一	指 導 主 事	小田島 健
ス ポ ー ツ 課 長	佐伯 広行		
指 導 主 事	神谷 俊輔		

：欠席者

## 1. 開会 午後3時00分

(教育部長)

皆様、こんにちは。本日はご多用の中、ご出席をいただき厚くお礼申し上げます。定刻になりましたので、只今から令和5年度第1回総合教育会議を始めます。

本日の会議につきましては、議事録を作成するため、録音をいたします。議事録につきましては、後日町ホームページにて公表しますのでご了解ください。また、本日の進行につきましては、お手元の次第に沿って進めますので、よろしくお願いいたします。

## 2. あいさつ

(教育部長)

それでは、靱山町長よりごあいさつをお願いします。

(町 長)

皆さん こんにちは。武豊町長の靱山芳輝 です。

日頃は武豊町の教育の充実に向け、それぞれの立場からお力添えをいただき大変感謝申し上げます。また、本日は、ご多用の中、令和5年度第1回総合教育会議にご出席いただき、重ねてお礼申し上げます。

さて、今年度5月には、新型コロナウイルス感染症の取り扱いが5類相当へと変更になり、様々な場面でウイルス流行前の状況を取り戻しつつあります。子どもたちも、マスクを外す子が少しずつではありますが、増えているのではないかと思います。感染症がなくなったわけではないため、油断は禁物ではありますが、子どもがのびのびと学校生活を送れるようになったことを、うれしく思っております。

昨年度末から今年度にかけて、実施をしている教育関係の施策としましては、教室になかなか足の向かない不登校児童の支援のため、小学校の校内教育支援センター指導員を1名増員し、4名体制といたしました。他にも教育環境整備のため、各小中学校の体育館等や特別教室の空調設備の設置工事を、現在進めております。

武豊町としましては、子どもたちが、安全安心な学校生活を送ることができるよう、様々な環境整備を通して、学校教育を支えてまいりたいと考えております。

本日は、「武豊町の児童生徒の現状」、「スクールソーシャルワーカー・教育支援センター指導員の活動実績」、「学校給食アンケートの実施」について報告があります。ご参会のみなさまには、それぞれのご専門の立場から多くのご意見をいただきますようお願いいたしまして、私からのあいさつとさせていただきます。本日はよろしくお祈いします。

**(教育部長)**

次に、榊原寛二教育長よりあいさつをいただきます。

**(教育長)**

みなさんこんにちは。教育長の榊原寛二でございます。本日はご多用のところご出席いただき、誠にありがとうございます。町内の小中学校では、9月1日に始業式を行い、2学期をスタートいたしました。まだまだ暑い日が続く予報ではありますが、町長様をはじめ、幹部の皆様には、武豊の子どもたちのために、特別教室と体育館等へのエアコンの設置をしていただき、教育条件の整備への格別のご配慮を頂き、深く感謝申し上げます。特別教室については、中間検査が終わった部屋からエアコンを使用することができるといことで、本日までのところで、緑丘小学校と富貴中学校の一部の特別教室で、使用可能となっています。今後は、各学校の特別教室においても快適な環境で学習が進められるものと思っております。ありがとうございます。

さて、本年4月より教育長に就任し、教育委員会が進める大きな取組として、「制服改定」「部活動の地域移行」「コミュニティスクール」という3点を引き継ぎました。1点目の「制服改定」については、本日の新聞にも掲載されておりましたが、児童生徒や保護者等を対象としたアンケートを行い、令和7年度より新制服にしていく予定です。2点目の「部活動の地域移行」につきましては、これまで教育委員会内での関連会議や校長先生との会議を重ねてきました。近々仮称ではありますが、地域のスポーツ関係者の方にも参加していただき、準備委員会を立ち上げ、令和7年度に新たな組織で地域移行を進められたらと考えております。3点目の「コミュニティスクール」は、近隣市町の内、令和4年度からコミュニティスクールを導入した知多市の統括コーディネーターの方からアドバイスを頂きながら、現在準備を進めています。来年度から衣浦小学校をモデル校として実践を進める予定です。特に2点目、3点目につきましては、予算化も必要となることから、詳細が決定しましたら、次回以降の総合教育会議でもご説明できるようにしていきます。どれも大きな内容ですが、この取り組みの先には、子どもたちや保護者、教職員、地域の皆様の笑顔があるものと思っております。保護者、学校、地域と連携して進めていきたいと思っております。

最後になりますが、本日は3点の報告事項を中心に、町長、教育委員、行政の幹部の方と懇談を深め、今後の教育行政へのご示唆を頂きたいと思います。皆様には大変お世話になります。どうぞよろしくお祈いいたします。

**(教育部長)**

本会議の出席者の確認につきましては、次第裏面にございます出席者名簿をもって代えさせていただきますので、ご了承ください。

### 3. 報告事項

#### (教育部長)

それでは、「報告事項」に移ります。「武豊町の児童生徒の現状について」、事務局からお願いします。

#### (指導主事)

私からは、今年度の全国学力・学習状況調査の結果からみた、本町の教育に関する児童生徒の傾向と課題について報告いたします。最初に、学力調査の結果です。本年度学力調査の対象となった教科は、小学校が国語と算数、中学校が国語、数学、英語となっております。小学校では両教科とも全国・県平均よりも正答率は低くなっています。中学校では、数学と英語の正答率が全国平均よりやや高くなっているものの、県平均よりは低くなっております。国語については全国・県平均よりも低くなっていますが、ほぼ同等の結果となっております。問題形式別に正答率を見ると、小中学校ともに記述式の問題について、平均よりも正答率が低くなる傾向にあります。また同じく記述式の問題で無回答の割合が高くなる傾向にあります。難しいと感じる問題にもあきらめず、粘り強い取り組みができるように指導するとともに、今回の該当教科だけではなく、さまざまな教科で自分の考えをまとめ、記述する力を高める活動を行う必要があります。現在、各学校でもその結果について分析をしております。今回の調査で出てきた課題については、授業アイデア例等を活用し、授業改善を進めてまいります。

次に、児童生徒の学習環境や生活習慣について調査した結果についてです。小学校の児童は、朝食を食べることや、就寝、起床時間について、全国や県とほぼ同じ数値となっており、各家庭において、しっかりと生活習慣が身に付いている様子がわかります。一方で、朝食が取れていない児童、不登校などで規則正しい生活が送れていない児童もおり、その児童に対しては、学校の教職員だけでなくスクールソーシャルワーカーやスクールサポーターなどが協力して家庭訪問を行うなど、今後も対応を進めていく必要があります。中学校の調査で、自分によいところがあると答えた生徒の割合は、年々増加しているものの、全国や県の割合には達していない。また、将来の夢や目標をもっている生徒の割合も全国・県平均よりも低くなっている。コロナ禍による影響で職場体験が中止になるなど、体験を伴った活動に制限があったことも影響として少なからずあったと考えられます。本年度より、富貴中では職場体験を4年ぶりに実施することができ、武豊中学校でも職場インタビューを実施しています。来年度以降の結果も注視していきたいです。今後も体験を伴うキャリア教育を充実させることで、自己肯定感を高め、生徒にとって適切な進路選択ができるように個に応じた進路指導を進める必要があります。

教科の学習については、授業の内容がよくわかると答えた割合は、小・中学校ともに、全国・県の平均と比べて低くなっています。一方で、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは役に立つと思うと答えた割合は、小・中ともに全国・県の平均よりも高くなっています。タブレット端末の活用により、その有用性を児童生徒が実感しております。今後も、ICT機器の活用を含め、児童・生徒の関心を高めるとともに、「できた」「わかった」と感じさせられる授業を行えるよう、町内各学校の取り組みを共有し、授業力の向上が図れるようにしていきたいと思っております。

#### (学校教育課長)

私からは、7月、8月に行われました県大会等における結果のご報告をいたします。武豊中学校の生徒となります。

まずは陸上競技部です。「男子走高跳」では、県大会1位、東海大会でも1位、「男子四種競技」では県大会で全国大会標準記録を突破し1位、全国大会で5位入賞という成績を収めました。他にも「男子800m走」では、県大会4位により東海大会、全国大会へ出場、「男子110mハードル」では県大会5位、東海大会3位で全国大会出場、「男子棒高跳」では県大会1位により東海大会へ出場し、8位入賞しています。

「ソフトテニス女子個人戦」では、県大会7位、東海大会7位により全国大会に出場しました。

「卓球女子団体戦」では、県大会3位により東海大会に出場しました。

「新体操男子団体戦」では、県ジュニア大会3位により東海ジュニア大会へ出場し4位となりました。「新体操女子団体戦」は県大会4位により東海大会へ出場し10位となっております。

また、富貴中学校「合唱部」が、NHK全国学校音楽コンクール愛知県混声中学校の部において、銅賞となっております。

今後も引き続き活躍を期待したいと思います。

#### (教育部長)

只今の報告事項につきまして、ご質問等がありましたらお願いします

#### (教育部長)

ご意見無いようですので、次に進みます。「スクールソーシャルワーカー・校内教育支援センター指導員の活動実績」について、事務局からお願いします。

#### (指導主事)

武豊町では、令和元年度よりスクールソーシャルワーカー（以下SSW）を導入しています。令和4年度からSSWを1名増員し、2名体制で支援を行っています。SSWが2名になったことで、週1日は必ず各校を訪問する機会を確保できるようになりました。2名のSSWそれぞれが、武豊中、富貴中の中学校区ごと、小2校、中1校を担当し、子どもたちの支援に当たっています。

令和3年度と4年度の調査を比較すると、SSWが児童生徒や保護者とかかわった件数はもちろん、支援が必要となった背景である「潜在化していたニーズ」の把握数が増加していることが分かります。訪問回数が増加したことで、SSWが児童生徒、保護者と話す時間が増え、よりよい関係が構築でき、丁寧に状況を見取って関わるできるようになりました。特に、児童生徒がなかなか言語化して助けを求めることができていなかった人間関係や、家庭環境に関するニーズについても、背景を明確に把握できるようになり、結果として子どもの支援が広がっています。また、週に1度必ず学校を訪問できることで、教職員や他の支援者との情報共有もスムーズに行えるようになりました。学校でケース会議を開き、児童への対応を多くの関係者で考えることで、不登校になる前に予防的な支援を行うことができた事例や、学校以外の関係機関と連携し、児童だけでなく保護者を社会資源につなげることで、事態が好転している事例などが挙げられています。

続いて校内教育支援センター指導員についてです。教育支援センター指導員は、登校はできるがなかなか教室に入ることができない児童生徒に対して、教室とは別のスペースを使って対応しています。昨年度までは、町内中学校2校はそれぞれ1名ずつの指導員が、小学校は4校を1名の指導員が巡回指導していました。小学校は、教育支援セン

ターの利用を希望する児童が少ない状況ではあったものの、担任をもたないそういった児童への対応が可能な教員の数が少なく、開設するのは、学校にとって大きな負担となっていました。本年度より、指導員を1名増員し、小学校を巡回する指導員が2名となったため、富貴小学校では平日午前中5日間、指導員による校内教育支援センターの開設が可能となり、学校から感謝の声が聞こえてきております。また、昨年度は開設されていなかった、衣浦小学校でも教育支援センターを開設することができ、2学期からは緑丘小学校と衣浦小学校の2校で巡回指導をする予定です。

不登校児童生徒数は、武豊町だけでなく全国的にも増加傾向です。SSW, 校内教育支援センター指導員ともに、不登校の児童生徒に対応するため、登校のきっかけづくりや、不登校の子どもの学校における居場所づくり等を通して、教職員と協力して子どもたちへの支援を行っています。

#### (教育部長)

只今の報告事項につきまして、ご質問等がありましたらお願いします。

#### (教育部長)

ないようですので、次に「学校給食に関するアンケート」集計結果について、事務局からお願いします。

#### (学校教育課長)

このアンケートは、新しい学校給食センターの基本計画や、設計に役立てるために実施をいたしました。調査の対象として小学校5・6年生と、中学校1～3年生、教職員、PTAの役員にアンケートを行っております。アンケートは、グーグルフォームを使ったウェブアンケートで、令和5年7月7日から20日の期間で行いました。回答率は、各属性とも60～70%でした。町が行う各種計画のアンケートでは40%ぐらいの回答率になるため、高い回答率となっております。

アンケート集計結果ですが、児童生徒に給食の満足度を聞いたところ、約74%が満足していると回答しました。満足していないと回答した理由を尋ねたところ、最も多かったのが「苦手な食べ物が出る(43%)」という回答でした。学校給食センターが新しくなった際にやってほしい取組については、「自分たちで考える献立(36%)」「外国の給食メニュー(27%)」などの回答が多く集まりました。また、自由意見では「給食センターのデザイン提案がしたい」や「放送室からの食レポの放送」、「コロナ前のように皆で会話しながらの会食」など、子どもらしい意見が出されていました。

同様の質問をPTAにも行っています。給食の満足度は、80%を超える方から満足と回答いただきました。一方で満足できない理由には、「献立の内容(64%)」と、厳しいご意見を頂いています。新しい学校給食センターでは、凍る手前まで素早く冷やすことができる調理機器等、新しい調理器具の導入等により、献立の幅も広がるため、改善が見込めると考えています。これからの給食に力を入れてほしいこととして、「献立の多様化(33%)」「食育の推進(28%)」が挙げられています。また、新しい学校給食センターで取り組んでほしいことについては、「児童生徒の考えた献立の実施(45%)」「給食センターの調理補助体験(19%)」が挙げられています。児童生徒の考えた献立については実施可能ですが、児童生徒が調理補助体験を行うことは、衛生面でなかなか難しいと考えられます。調理機器事業者からは、調理員にカメラのついた眼鏡を着用してもらい、調理員目線で調理過程を学ぶ取り組み等、ICT機器を活用した食育の提案がされていま

す。今後話を進めてまいりたいと思います。最後にPTAからの自由意見として、「給食で使いきれなかった食材を子ども食堂へ」「原材料の生産者の声を聞く機会を作る」「親子給食を行う」等の意見を頂いています。

(教育部長)

只今の報告事項につきまして、ご質問等がありましたらお願いします。

(教育部長)

特にないようですので、これで報告事項を終わります。

#### 4. 意見交換

(教育部長)

続きまして、本来であれば協議事項に移りますが、今回、協議事項はありませんので、そのまま意見交換を行います。

(教育委員)

全国学力学習状況調査結果について、気になったのが「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに肯定的に答えた割合や、中学校の「将来の夢や目標をもっていますか」の問いにもっていると答えた割合が、全国や愛知県と比べて武豊町の子どもたちは低かったことです。自己肯定感が低くなっている子どもが多いのかなと思いました。新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な体験をする機会が減り、子ども同士や地域との関わりが少なくなったからではないかとの報告もありました。コロナウイルス感染症が5類へ移行したことを機に、コロナ禍前と同じように様々な行事が開催されるようになっていきます。先日もふるさとまつりでたくさん子どもたちがたくさん参加し、いろいろな体験をしている様子を見ることができました。子どもたちが、こういった体験をする中で、自分にどんな良さがあるかということを感じられるよう、機会を設けていただければと思います。

ICT機器活用については、かなり利用率が高くなっていることが分かります。それに関連して、子どもたちがタブレットを家庭に持ち帰り、ゲーム感覚で学びを進めることも、今後増えることを期待しています。子どもたちが得意な分野で、興味をもって取り組むことができる、そんな課題が増えると、現在は国、県の平均と比べて低くなっている、「学校の授業以外で学習している時間」についても、増加していくのではないかと思います。

最後に、町長の現場主義、学校の様々な問題に対する素早い対応に感謝をいたします。全国的には、こども家庭庁が設置され、縦割り行政ではなく18歳までの子どもを中心に、1つの視点で見えていこうという動きとなっています。武豊町では今回報告のあったスクールソーシャルワーカーや校内教育支援センター指導員の配置など、子どもを中心に考えた環境整備がされています。今後も是非、チーム武豊として、一丸となって教育行政を進めていただければと思います。

(教育委員)

先ほどの委員の話と重なりますが、私も全国学力学習状況調査の結果から、どうすれば子どもたちの自己肯定感を高めることができるか、様々な方策を考えていただきたい

と思います。その一つとして、学習者用タブレットの活用は有効だと考えます。授業の中で、先生が資料提示をするだけでなく、子どもたちが写真やビデオを自ら撮影しているのを見て、タブレット活用が進んでいると感じています。一方で内容の深い理解については、まだまだであることも、調査結果から読み取れます。ICT機器を使い、子どもたちが直感的にわかる授業と、学習事項をより深く考え、自分の言葉で記述することを大切にする授業の両方を進めていただければと思います。

部活動については、本当に中学生が頑張っていると思います。自分の好きなことに熱中し、結果を出している姿が素晴らしいと感じます。

給食センターのアンケートは、子どもらしい可愛い意見がたくさんありました。ただ、この意見が子どもたちの本音であろうとも思います。皆が同じものを食べる給食はとても大切な時間です。コロナ禍で、黙食をしていた時期には、子ども同士のコミュニケーションもなく、寂しい時間だったでしょう。すべてがコロナ禍前に戻ることはないかもしれませんが、少しでも子どもたちがコミュニケーションを取れる状況が戻るとよいと思います。

#### (教育委員)

私なりの分析ではありますが、学力状況調査について、昨年度も今年度も学力テストの結果からは、特に中学校において武豊町の子どもたちの学力が伸びていることが分かります。中学校で正答率が高いのは、選択肢や短答式の設問であり、これは整備された学習者用タブレット等のICT機器を活用した結果、できるようになった強みの部分なのではないでしょうか。それだけ、中学校では、生徒がICT機器を使いこなす授業を行っていただいているのだと思います。一方で、記述式の問題の正答率が上がらないままなのは、ICT機器活用だけでは、足りない部分が顕著に表れているのではないかと考えます。ここに力を入れることで、今後さらなる武豊町の子どもたちの成長が、期待できると思っています。また、中学校だけでなく小学校においても、ICT機器活用を拡大して、「分かった」「できた」を子どもに味わわせることができれば、先ほどの委員の話にも拳がっていた、自己肯定感を育てることもできると思います。学校へのICT機器導入に力を入れている武豊町として、学校の先生方には、是非、結果につながる活用をしていただければと思います。

スクールソーシャルワーカーの増員は、本当にありがたい施策です。潜在化していたニーズを掘り起こすことができたというのは、大人でも表現するのが難しい、苦しい思いを、子どもたちからソーシャルワーカーに向けて伝えることができた、ということでしょう。関わり合いの中で、子どもが発する言葉の端々から、ソーシャルワーカーがそこにある思いをくみ取ってくれている成果であろうかと思っています。すごくありがたいことですし、こういった子どもたちが、最終的に通常の生活に戻れることが、とても大切であると考えます。増員によって、救われる子どもが増えることは、とても意義のあることですし、今後もそれを期待しています。

#### (教育委員)

このアンケートの根本には、「学校は楽しいか」「家庭で安心して過ごせるか」「地域で過ごすのは楽しいか」という問いがあるのではないかと思います。学校が楽しければ、それぞれの授業を好きと考えるでしょうし、家庭が安心できる場であれば、安定した生活を送ることもつながるでしょう。また、地域で過ごすことが楽しい子どもは、地域行事にも積極的に参加し、地域社会をよりよくしたいと考え行動するようになるでしょう。

う。そうであれば、一番に学校がやるべきと、私が考えるのは、「楽しい学校づくり」です。子どもたちが安心できるような環境、毎日ワクワクと楽しく学習できるような環境が構築できれば、このアンケート結果は、よりよい方向へ変わってくると思います。

スクールソーシャルワーカーや校内教育支援センター指導員といった、人的資源を町立学校へ多く配置していただいている、武豊町の方針に感謝いたします。校内教育支援センターは、昨年度、ある学校の校長先生から、教室には入れないが学校に来ることはできる、そういった子どもの受け入れの場として、とてもありがたい存在であると聞いています。また、今回の報告にもあった通り、校内教育支援センターの設置に当たり、特に小学校では、学級担任をもたない教員の数が少なく、登校してきた子の話を聞く、相手をする余裕もない現状があるとも聞いています。校内教育支援センターは、学校に来ることのできる子どもへの対応として、最後の砦となります。ここを超えてしまうと、子どもは不登校となり、そこからの復帰には、大きな力が必要となってしまうことでしょう。とにかく学校に来ることができる、そういった子の居場所として、環境を整えることの大切さを感じています。今年度、校内教育支援センター指導員を増員していただいたことは、この最後の砦を守っていただいたということで、本当にありがたく思います。スクールソーシャルワーカーの増員も同様です。その仕事は肉体的にもそして精神的にも激務であろうと想像しますが、実際に相談する子ども、そして保護者の立場からすると、次年度はいるかわからない人相手には、なかなか込み入った相談はできないでしょう。いつまでも武豊にいて、自分たちのことを親身になって考えてくれると、思えるからこそ、苦しい思いや、本音を相談できると考えます。スクールソーシャルワーカーを町職員として雇用していただいていることにも重ねて感謝いたします。

#### (総務部長)

本日は町の財政状況、と教育費、特に学校関係の予算および執行状況についてお話しさせていただきます。

まず始めに、令和4年度一般会計決算について、概算額で申し上げます。歳入決算額は、約148億円、歳出決算額は約142億円でした。本町の歳入の根幹をなす町税は約81億円で、歳入全体に占める割合は、約55.4%であります。

次に歳出の決算額は、民生費約59億円の次いで、教育費と土木費が共に約18億円ほどであります。教育費の決算の中で、令和4年度の小中学校に関わる特徴的な事業としましては、屋内温水プール施設整備・管理運営事業委託料、各小学校・中学校の施設営繕工事などがあります。

続きまして、令和5年度予算について、概算額で申し上げます。令和5年度一般会計予算額は、約175億円であります。歳入の根幹をなす町税は約112億円で、歳入全体に占める割合は、約64.1%であります。例年の町税収入は、80億円前後でありますので、今年度はかなりの増収となっております。その理由は、JERA武豊火力発電所の稼働により、主に償却資産分の固定資産税が増加したためです。またこの事によりまして、本町は令和元年度以来、4年ぶりに普通交付税の不交付団体に転じました。

次に歳出予算では、教育費は民生費に次いで2番目の予算額で約31億円です。教育費の予算の中で、令和5年度の学校関係の特徴的な事業としましては、何といたっても小学校・中学校の体育館、特別教室への空調設備設置工事であります。夏休み期間を利用して工事を行ない、出来る限り早期に稼働できるよう工事を進めております。そして、児童・生徒の皆さんが、快適に学校生活を送れますよう、工事検査が終了したところから利用できるように努めております。



#### (企画部長)

スクールソーシャルワーカーについては、令和元年度の導入当初は、非常勤職員として始まったと記憶しております。以来、少しずつ体制を整え、現在は2名体制となり、支援体制の充実した活動状況を拝聴いたしました。今後も益々の活躍を期待しております。

会議に先立ち、教育長のご挨拶にもありました中学校の制服が2025年度からブレザー化の準備を進めるとの報道が、新聞を通して、住民に発信されました。この情報発信と改定ということについて、昨年度、この場で本町の情報発信ツールの一つである、ホームページの全面リニューアルの報告をさせていただきました。

今年度は、もう一つの情報発信ツールである、広報紙について少しお話をさせていただきます。本町の広報紙の印刷文字は、「ユニバーサルデザイン」のコンセプトに基づいた、誰にとっても見やすく読みやすい「ユニバーサルデザイン フォント」を平成29年7月から採用しております。「ユニバーサルデザイン フォント」は、読みやすさ・見やすさ・分かりやすさの面を考慮しデザインされているのが特徴となっております。また、広報紙のデザインでは、写真やイラストに加え、伝えたい情報をシンプルなマークで表現した「ピクトグラム」を効果的に配置することにより、直感的に内容が伝わるデザイン構成となっております。令和5年5月からは、全ページをカラー印刷としたことで、更に視覚的にもわかりやすく親しみのある広報紙になったものと考えております。また、以前の広報紙は、全て縦書きでしたが、現在はお知らせする内容に合わせ、横書きを主体に構成しております。この様に時代の変化に合わせ、改定を加えながら様々な工夫が凝らされた「広報紙」となっておりますので、またそのような視点からもご覧いただければと思います。そして、子どもたちへも町の魅力が伝わればと思っております。

#### (企画政策課長)

本町は、令和6年10月5日をもって、町政70年を迎えます。この記念すべき周年を全ての町民の皆様とお祝いするため、本年令和5年度と来年令和6年度の2か年に渡り、様々な記念事業を展開していく予定であります。とりわけ、本年度は2点の事業について、小中学生を対象に協力の依頼をさせていただいておりますので、ご紹介をさせていただきます。

1点目は、「目指せ！ゼロカーボンシティたけとよ」標語コンクールと題し、小学4年生から6年生と中学1年生から3年生を対象とし、地球温暖化の防止をテーマとした「標語」を夏休み期間中に募集する事業です。募集した「標語」の中から優秀な作品を選び、来年令和6年度に作成する「日めくりカレンダー」にその標語を掲載する予定です。応募作品は小学生から126点、中学生から503点、合計629点の多くの標語を応募して頂きました。今後は、入選作品31点を選定し、カレンダー作成に向け準備を進めていきます。

次に2点目として、「下水道マンホールふたデザインコンテスト」であります。こちらは、小中学生を対象に町内に設置してあるマンホール蓋のうち10箇所のマンホール蓋のデザインを募集するものです。この事業も夏休み期間中を募集期間とし、武豊町らしいデザインを募りました。応募作品は小学生から549点、中学生から242点、合計791点の多くのデザインを応募して頂きました。今後は、最優秀賞を2点、優秀賞を8点選考し、令和6年度の設置に向け準備を進めていきます。

この他にもイベントとして、12月3日(日)に、富貴小学校の体育館を会場とし「ギネス世界記録に挑戦」する「浦島太郎と仲間たちの大集結！in たけとよ 世界一に挑む物語！」と題して、浦島太郎、乙姫及び亀の恰好をした人を250人集める「ギネス大会への挑戦」を予定しております。世界記録達成には250人以上の参加者が必要となりますので、今後、小中学生の皆さんにも参加の依頼をさせて頂く予定をしております。

また、令和6年度には、「衣浦みなと花火大会」、「第7回武豊ふれあい山車まつり」など多くの記念事業を行う予定をしておりますので、全ての町民の皆様と記念すべき年をお祝いしていきたいと考えております。

(教育部長)

貴重なご意見をありがとうございました。本日いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。

## 5. その他

(教育部長)

それでは、その他について、事務局お願いします。

(指導主事)

事務局より、2点連絡をさせていただきます。

1点目は、会の始めにもありましたが、本日の協議については、議事録を作成しホームページにて公表させていただきますので、ご承知おきください。

2点目です。次回は、令和6年2月8日午後3時00分から、全員協議会室での開催を予定しています。連絡は以上です。よろしくお願いいたします。

(教育部長)

その他、みなさまから何かございますか。

(教育部長)

ないようですので、これをもちまして、令和5年度第1回武豊町総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。